

能力の担保などが求められ、入札参加資格の決定において考慮されるべき点である。

市内業者による建設を求める声は理解できるが、現時点ではこれらを総合的に判断し、準市内業者の参加機会に配慮する。なお、入札参加資格は、今後契約審査委員会に諮り、最終的に決定したい。

外国人に向けた 災害時情報発信

◎**神田議員** 本市の外国人は人口の1%超となっており、災害時には多言語による周知が必要と考えるが、防災マップの多言語化、SNS上でのQRコードを使った情報発信の考えは。また、避難所での生活では言語によるコミュニケーション不足がトラブルやストレスの原因となるが、軽減させるための取り組みは。

▲**市長** 防災マップへの多言語表記は今後対応予定であり、SNSは外国人の使用が多いことから、現在も情報発信を行っている。今後はQRコードについても対応したい。避難所におい

ては簡易かつ利便性の高い災害時多言語シートを設置し、活用したい。

給食費一部補助と 米飯中心給食実施を

◎**中谷議員** 食料費高騰により、10年間据え置きとなつている本市の学校給食費は限界が来ている。給食費無償化は市長の公約であり、その第一段階として値上げ分は家庭の負担でなく市で補助することを提案する。また、生活習慣病予防の観点からも主食はパンを減らし米飯へ計画的に移行することを求める。

▲**教育部長** 野菜などの価格高騰で献立作成に苦慮している。来年の消費税増税の影響を検討し、給食のあり方を検討するが、給食会計を圧迫する緊急の場合は食材費補填の財政支援を考える。また、米飯の回数を増やすことについては、栄養教諭をはじめ関係機関とより良い方向性を検討する。

次回の定例会は12月上旬に開会予定です。

中央保育所の募集停止を求める決議可決

定例会最終日に審議され、賛成多数で可決されました。

丸亀市立中央保育所入所募集停止を求める決議

市長は、中央保育所の移転改築先として、旧亀寿園跡地が候補地の一つであると公表されているが、市議会は、今

市民営方式により教育・保育施設を整備すべきとの意思を決定したところである。

9月定例市議会において提出された請願第2号「旧亀寿園・亀寿団地跡地整備に民設民営方式による教育・保育施設整備を求める請願」及び請願第3号「旧亀寿園跡地に民設民営方式による教育・保育施設整備を求める請願」を採択し、旧亀寿園跡地には民設

したがって、二元代表制において地域づくりのパートナーである市議会が地域経営の観点から決定したこの結果を、市長は重く受け止め、次年度の新たな中央保育所入所希望者の募集を停止するよう求める。以上、決議する。

平成30年10月5日

丸亀市議会

議会報告会 意見交換会 を開催します

事前申し込みは不要です。お気軽にお越しください。

開催日程

●11月6日(火) 午後5時

丸亀市役所2階 市議会議場

「若者の政治参加について」

●11月7日(水) 午後6時30分

ひまわりセンター4階研修室

「新市民会館のあり方について」

ご意見
お待ちしております!



丸亀市議会事務局
〒763-8501
丸亀市大手町二丁目3番1号
TEL 0877-24-8828
E-mail
gikai@city.marugame.kagawa.jp

●11月19日(月) 午後6時
レクザムBP丸亀(市民球場)
「保育士確保について」

総務委員会

7月
17~19日

鯖江市
ボートレース
三国
糸魚川市

行政データの民間活用

鯖江市では、行政が保有するデータを公開し、民間がアプリ作成に活用する取り組みが行われています。これまでバスの位置や乗客数把握、橋梁データの検索、河川水位を調べるアプリなどが開発され、一般の利用に提供されています。市のデータは市政の主役である市民が活用するという考えは参考になりました。

モーニングレースの取り組み

ボートレース三国では、通常よりも早い時間帯にレースを開始するモーニングレースを今年度より実施し、売り上げを伸ばしています。本市はナイターレースを実施していますが、場外発売で協力し、相互に売り上げ向上につなげていく必要があります。

駅北大火からの復興

平成28年12月に発生した駅北



糸魚川市大火の状況を消防署長から聞く

大火の発生時の状況、復興計画について説明を受けました。出火当初は通常の建物火災でしたが、フェーン現象による強風から飛び火が多数発生し、多くの建物が消失しました。地域で互いに声を掛け合い避難ができたため、幸いにも死者は出なかつたとのことでした。現在、糸魚川市らしさを残しながら防災機能を高めるまちづくりを進めています。本市も住宅密集地があり、道幅も狭く消火活動が難しく、な箇所もあります。地域の防災意識を高める周知・啓発活動の重要性を改めて認識しました。

都市環境委員会

7月
18~20日

藤枝市
日本政府
観光局
三鷹市

民間力の利活用

藤枝市は民間力を最大限に活用し、また、今後の人口減少を踏まえ、国の補助金を効果的に活用し、できるだけ財政出動を抑えて駅周辺の再開発を行っています。民間力を活用した魅力あるまちづくりの取り組みは、本市のまちづくりを進める上で参考となりました。

インバウンド施策

日本政府観光局は外国人旅行者の誘致活動を行う政府機関です。地域への外国人旅行者客アツプの施策として、本市に観光にきている外国人の滞在場所や周遊ポイントから、どのような場所に興味を示しどれぐらい滞在時間を使っているのかなど、市内や近隣市町への行動パターンを分析することにより、力を入れるポイントが目に見える形で分かり、より効果的なインバウンド施策につなげるとの説明がありました。



分析に基づくインバウンド政策について

市民協働センター

データ分析に基づく施策はインバウンド施策に限らず、今後の本市の様々な施策にも活用できるものと感じました。

三鷹市では「参加から協働へ」としてコミュニティや産・学・官と連携した協働を行っています。本市でも市民交流活動センターを展開するためには人材の育成、人とのつながりが最も重要であり、そのような環境づくりの取り組みが必要であると感じました。

教育民生委員会

7月
2～4日

宝塚市
船橋市
東京都
板橋区

学校給食における食育

宝塚市では、学校給食を食育の重要性を考慮し、財政的な負担は大きいですが、自校式での給食提供を行っている。

本市はセンター方式ではあるが、宝塚市が行っている講座形式の料理イベントなどのように、学校だけでなく地域を巻き込んだ取り組みをすることで、大人を含めた食育の推進につなげることが大事と感じた。

保育士確保策

船橋市は、平成27年に待機児童数が625人と、全国ワースト2位という結果を受け、待機児童解消として、保育の受け入れ枠を2年間で2000人分拡大し、併せて保育士の緊急確保を実施したことで、2年間で約400人の待機児童削減を実現した。

本市においても今年待機児童が発生しているため、船橋市の施策を参考に待機児童解消に向



船橋市で待機児童対策を聞く

け市議会も市と協力していきたい。

生活支援体制整備事業

高齢化社会の顕在化とともに、地域で支えあう体制作りは自治体の急務である。

板橋区では、独自の地域包括ケアシステムを構築し、推進している。

今回の研修を参考に、市とともに本市における本事業を推進していきたい。

広報広聴委員会

8月
2～3日

上野原市
あきる野市

1. 山梨県上野原市議会

昨年度、山梨県広報コンクール議会部門で奨励賞を受賞。

● 一般質問には質問者の写真を入れる。

● 質問原稿は質問をした議員が用意する。

● たくさん書きたいのを抑えて空白を入れ、読みやすく。

● ターゲットを絞った特集記事。「子育て世代」「青年会議所」「清掃サークル」「消防団」など。読者が読者を呼ぶ。

● 次の議会の予定をカレンダー方式で予告。



上野原市議会での研修

2. 東京都あきる野市議会

タイトルは「ギカイの時間」。全国各地から視察が来る先進の取り組み。

● 「こんな質問が出ました」「こんな意見がありました」とタイトルが柔らか。

● 予算の説明でも数字の羅列では誰も読もうとは思わない。空間を設け、写真を多用。

● 若手農業者、大学生、市外からの移住者、外国人、J・R利用者などに登場願う。

● 読みやすさにこだわり。「ちよつとオシャレで気軽な読み物」をモットーに。

● 議員間の表記・用例の統一のため議会独自で「表記便覧」を作成した。

3. 視察を振り返って

市民が登場する「特集記事」と「見やすいレイアウト」で読者を獲得。議会が「書きたい」ことより市民の皆様が「読みたい」ことに狙いを定め、広報の改善に挑戦してまいります。



「だより」を持って高校へ!

編集長：委員会を代表して、市内5つの高校にお邪魔しました。

編集委員：先生方や生徒会代表の皆さんにお会いし、手ごたえありましたね。

編集長：先日の先進地視察でも「議会だより」を高校に届けるという市があった。

編集委員：銀行や郵便局にも。積極的ですよ。

編集長：高校生の皆さんとは初対面。初めはコチコチだったけど、しっかり発言してくれる人もでてきた。

編集委員：編集長がベラベラたくさんしゃべったから、すぐに打ち解けたみたい。

編集長：それ、ほめてるの？

編集委員：初めて「議会だより」を開く人ばかり。でも「発言した人の写真があるといいですね」とか「税金を使って作ってます、どこかに書いたらどうですか?」とか、さっそく採り入れたい意見ももらいました。

編集長：それから、学校内でいちばん読んでもらえる場所を尋ねたら…。

編集委員：図書館はあんまり行かない人が多い。それは私も同じだったなあ。

編集長：あなたの回想はいいよ。廊下の掲示板とかがよさそう。

編集委員：やっぱり高校生に読んでもらうには、「スマホ対応」ですよ～。

編集長：それも先々、考えなきゃね。

編集委員：先日の知事選の18、19歳の投票率、22%はショックでしたね。

編集長：全体に関心が低かったけど、「投票に行かないクセ」がつかないか心配。

編集委員：編集長、生徒の前で先生に「投票、行きました?」って聞いてちゃダメだよ。

編集長：すまない(汗)

編集委員：ところでこの号が皆さんのところに届くころには、「議会報告会」も間近です。

編集長：昨年に続いて高校生、そして今年は大学・短大の皆さんにも呼びかけた。

編集委員：総務委員会なんか、本会議場でやるんですよ。

編集長：意欲的! 5校から5人ずつ来てくれると25人。ちょうど議員の定数と一致して「満席」だ!

編集委員：そこかい!

編集長：もちろん「傍聴席」もあるからどなたもお越しいただけます。そして私たちは座り慣れない「理事者」の席へ(笑)

編集委員：楽しみですね。

編集長：大きな成果を目指し、準備を進めよう!



丸亀城西高校生徒会の皆さん。ご協力ありがとうございました。

編集後記

今号では「議会だより」として初の、表紙と連動した特集記事を企画しました。

7月に編集委員会として先進地視察を行い、こうした連動企画の取り組みを学び、さっそく試みたところです。

そのスタートが「石垣崩落」だったのは残念なことでしたが、9月議会でも多くの意見の出たとおり、全庁横断的な石垣復旧の必要性から、私たち議会もその一翼を担いたい、そんな思いで企画しました。次号からは老若男女、市民の皆さまが登場する特集企画も検討してまいります。

豪雨、地震など「災害列島」とも言われるようになった日本。人的な被害こそなかったものの、400年の歴史ある石垣が崩落した姿は市民の心に大きな傷を残しました。もう「災害が少ない丸亀」とは言っていられません。その時、議会はどう動くのか。真剣な準備を進めてまいります。

広報広聴副委員長 内田俊英